

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201107		
法人名	有限会社 篠路愛護苑		
事業所名	グループホーム 第2 からまつ さくら草		
所在地	札幌市北区拓北4条3丁目 10番17号		
自己評価作成日	平成28年12月31日	評価結果市町村受理日	平成29年3月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&JigrosyoCd=0170201107-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

JR拓北駅より3分ほどの静かな住宅街にある為、交通の便がよく、また、駐車場も完備しているの
で、ご家族様の来訪には気兼ねなく来て頂ける環境にある。庭には芝生が貼ってあるので、夏場には焼肉が
できたり、日差しを浴びながら昼食会も行える。畑を作り、トマトやお芋などをうえ、利用者と一緒に手入
れをしたり収穫を楽しんだりしている。また、実のなる樹木もあり、さくらんぼ・栗・ぶどうと季節の果物を採
る、味わうなどの楽しみも持っている。大きな行事は両ユニット合同で外食や出張握り寿司など楽しみ、フロア
の交流を行っており、顔を見ると元気かい。と、気兼ねなく声をかけられる環境を作っている。毎日の体操やレ
クリエーションも楽しく行えるよう工夫をしたり、何気ない時間にも歌を歌うなどし、常に楽しい場所つくりを
心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌郊外の拓北駅から徒歩5分程の住宅地にある2ユニットのグループホームである。建物は3階建てで2~3階が
グループホームとなっている。近くに駅やコンビニエンスストア、公園があり、住環境に優れている。一方、今年中
に同じ北区の屯田地区へ移転を計画している。職員は事業所の介護理念、基本理念をよく理解し、利用者に丁寧
にやさしく接している。利用者も明るく、表情が豊かである。また、職員同士の協力関係も良好である。グルー
プホームを多数経営するふれあいネットワークグループの一員であり、研修体制が整い、毎月のようにカリキュ
ラムに沿った研修が行われている。ケアマネジメントの面では、3ヵ月毎に介護計画の見直しを行い、目標の実
施状況を記したモニタリングシートや担当者会議の記録も整備している。日々の生活記録も計画目標の番号を記
しながら利用者の様子や支援内容を記載し充実させている。医療支援の面では協力医のほか複数の科目の往診
もあり、通院する場合も事業所で通院を支援している。また、利用者ごとに受診記録が分かりやすく整備さ
れている。外出行事は多くないが、職員体制の充実に合わせて外出支援の充実に目指し、現在は利用者が個々
に家族の支援を受けながら美容院や馴染みのスーパーなど、希望の場所に外出している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さくら草)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を念頭に、自分らしく穏やかな生活が過ごせるように支援する基本理念があり、常に意識できるよう、廊下・フロアの見える位置に掲示し、実践につなげている。	独自の基本理念と介護理念があり、基本理念の中で「地域や自然と関わりをもって穏やかに～」の内容を掲げている。理念をリビングスペースやユニット入口付近に掲示している。職員は特に介護理念を意識し、実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の総会には参加しているが、今年度は地域のお祭りやホームの夏祭りが同じ日で参加できなかった。庭の栗ひろいやサクランボ狩りの日には近所の子供が参加し、一緒に楽しんでいた。	町内会の総会に管理者が参加しているが、地域行事については、今年度は日程が合わず参加できなかった。事業所の庭のさくらんぼや栗が生った際は近所の子供達が来て一緒に収穫している。	次年度、屯田地区への事業所移転を計画しており、新たな場所で地域と親密な関係を築くことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議のばを利用し、出来事としてあった事の報告や対応策など聞いていただいている。また、入居の問い合わせの電話などでは相談に乗り、支援の方法をお伝えしたり、他の事業所を紹介するなど行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は偶数月に開催しており、活動報告・事故報告などを行い、参加者の意見や課題を検討している。	運営推進会議を2ヶ月毎に開催し、地域包括支援センター職員、町内会関係者、地域住民、家族が参加して運営報告の他、法人の監査、外部評価などを話し合っている。議事録を家族に送付している。	会議のテーマを年間を通して計画的に設定し、より幅広い観点で意見交換が行われることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は市・区の会議には参加しているが、今年度は区の担当者を訪問できていない。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり、情報提供を得ている。区や市の管理者会議にも参加し、情報交換を行っている。事業所移転の関係で、市やまちづくりセンターに様々な相談を行い、密接な関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な禁止行為がわかる小冊子を配布し、年2回の内部研修を行い、何が禁止行為になるのか知る機会を設けている。	身体拘束を行っておらず、禁止の対象となる具体的な行為が記された小冊子を職員に配布し、理解を促している。また年2回、勉強会を行っている。玄関は施錠しているが、内側からすぐ開けられる鍵である。出入りがあればセンサーで分かるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の内部研修で虐待について学ぶ機会を設けている。入浴や更衣時に青あざなど発見した時にはどのようにしてできたものなのか、話し合い、原因をつかむ努力をしている。		

グループホーム 第2からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さくら草)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度から後見人制度を利用した利用者があり、それを機に後見人制度について勉強する機会が持てた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時には契約書に添った説明を行っており、理解・納得をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来苑された時は日常の報告を行い、ご本人やご家族の思いを聞き、日々のケアに反映させている。	家族の来訪は平均して月1回程度で、家族から得られた意見は「家族連絡表」に記載し、共有している。3階のユニットは家族あてのお便りを作成しており、2階のユニットも作成を検討している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃から職員の意見や要望に耳を傾け、他の職員とも、その意見や要望に対し、話し合っている。	毎朝の申し送り時や計画更新時のカンファレンスで職員同士、意見交換を行っているが、定期的な全体会議や個人面談は行っていない。職員は行事企画や環境整備、室内装飾を分担して行い運営に参加している。	定期的な全体会議や個人面談の実施を期待したい。また、全体会議の議事録を作成し、参加できなかった職員に内容を伝えることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社は正社員制度を確立させ、個々の能力に応じ評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数や個々の能力に応じ研修を受ける機会を設けている。また、資格取得に向け、費用を負担し、働きながらスキルアップできる環境を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は札幌市や北区の管理者連絡会に参加し、情報の交換を行っている。また、ふれあいネットワークに参加し、他のGHとの情報交換に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さくら草)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の見学時にご本人が不安に思っていることや困っていることを聞き、どのような対応が出来るかを話し合い、少しでも安心して頂ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学時にご家族が不安に思っていることや困っていること、ご家族にしかわからない利用者の性格や生活歴をうかがい、ホームではどのような対応ができるのかなどを話あい、信頼関係を構築する努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様からの情報をもとに、まず何が必要かを見極め、他のサービスの情報提供も含め、説明している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の負担にならない範囲で食器拭き、洗濯たたみなど手伝って頂く。また、ご本人の居室の掃除も一緒に行うなどし、生活に役割を持っていただいている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事のご案内をし、一緒に楽しんでいただける場面を提供したり、面会時には、他の方を気にしないよう居室でゆっくりと過ごして頂いている。また、体調の変化などはこまめに電話で報告し、情報の共有をし、暮らしをともに支えあっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族などの面会がある時は、居室でゆっくりと話して頂いている。お正月には外泊をしたり、お墓参りに出かける方もいる。家族が美容院に勤めている方が2名おり、ご自宅で髪を切ったり、染めたりしている方もいる。	友人が来る利用者はいないが、親戚が来訪する方が2~3名いる。手紙の用意や投函、電話を掛ける際の支援も行っている。家族と一緒に美容院や馴染みのスーパー、パチンコ店に出かけている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	良く会話をされている方がいたり、隣席の方の下膳を気にかけてくれる方がいたり、利用者様同士がお互いを気にかけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さくら草)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退去された方なども、お見舞いに行き、様子をうかがい、今の状況をご家族に連絡したり、今の状況をご家族から聞き、心配なことはないか、お声掛けをさせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とのコミュニケーションをこころがけ利用者の動きを観察しながら一人一人の思いや意向を把握している。アセスメントシートの定期的な見直しなども行っている。	9割の方が言葉で思いや意向を表出でき、難しい場合も問いかかけの反応などから把握している。フェイスシートやアセスメントシートを作成しているが、利用者により整備状況に差が見られる。	全利用者のフェイスシート、暮らしの情報シート、焦点情報シートが同じように、また、定期的に整備されることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族から情報をもらっているが、ご本人との話の中や、動きの中から情報を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活の中から出来る事、できないことを把握し、職員間で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を更新する際は計画担当者が中心となり、家族の要望を確認し、モニタリングにて評価・問題の課題を見つけプランに反映させている。	介護計画を3か月毎に見直ししている。目標の実施状況を記したモニタリングシートをもとにカンファレンスを行い、担当者会議の記録も整備している。日々の記録は計画目標の番号を記載しながら利用者の様子や支援内容を記載している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録・情報の共有の必要性や重要性を認識しており、毎日の申し送りでその日の気付きを申し送ったり、連絡ノートで周知している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隔週で訪問診療を受けており、日々の生活の中で新たに生まれるニーズには家族の状況を踏まえ、て対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や地域支援包括センターの職員の助言を生かしながら安全な暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現役で働いている家族や高齢の家族が多く、ほとんどの受診はホームで行っている。日々の状態や、体調などを的確に答えることでかかりつけ医との関係を築いている。	協力医による2週に1回の往診を受け、その他複数の科目の往診もある。整形外科や眼科に通院する場合は事業所で通院を支援している。利用者ごとに受診記録を作成し、情報を共有している。	

グループホーム 第2からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さくら草)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を受け、健康チェック・医療の指導、指示を受けている。また、日常生活の中での注意点など助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護添書にて日常生活を遅多恵、入院中にも利用者が不自由がなく安心して医療が受けられるようにしている。入院中も利用者への顔出しは意識しており、不安の軽減を図り、病院とも治療状況を聞き、早期退院にむけて取り組んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応に係る指針として説明し、同意を得ている。状態が変わってきたときは、家族には細かく報告し、医療機関と相談しながら検討している。	利用開始時に「入居者様が重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、同意書を取り交わしている。医療行為が必要な場合の事業所での看取りは難しい旨を説明し、同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを各職員が把握し対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、1度は日中想定、もう1度は夜間想定で行っている。近隣の住民には今後も避難訓練参加の呼びかけを行っていく。職員の救急救命講習も2年に1度は受けれるように計画している。	年に2回の昼夜を想定した避難訓練を実施しており、1回は消防の協力を得ている。一方、地域の方の訓練への参加は得られていない。職員の救急救命訓練を計画的に進め、水や食料などの備蓄品も用意している。	新たな移転先で地域の方に避難訓練への参加を依頼し、実現することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	呼び掛けは基本、名字で呼んでいる。居室を尋ねる際もノックし返事を待ってから入るなどプライバシーにも気を付けている。	新任者研修で言葉使いを学び、気遣い、心遣いができる対応をしている。気になる言葉が聞こえたら管理者やリーダーが都度、注意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己表現できる方には聞く耳を傾け、思うように表現できない方には言葉を選び、自己決定が出来るような声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やお茶の時間など日課の中で決まっていることもその時の気分やペースに合わせて自己決定できる声掛けを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の服装や行事・外出などご本人の選択を優先し、季節に添ったおしゃれが出来るよう声掛けを行っている。		

グループホーム 第2からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さくら草)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備が始まったらいい匂いがするね。など食事に対して楽しみが持てる声掛けを行っている。また、外食や出前なども利用したり、その方に合せ、一口大で提供し、おいしく食べられるよう工夫している。	食材とメニューが業者によるものだが、自由献立の日を設定し、普段メニューにないグラタンやおでん、誕生日には赤飯に変更している。外食では寿司やバイキング等に行っている。庭の栗、サクランボなども利用者の楽しみになっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養士が作ったメニューで提供している為、栄養バランスは取れており、食事の量も年齢や性別などその方に合わせて加減している。チェック表を用い食事・水分量が確保できるよう支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを行い、しっかりと磨けない方は仕上げ磨きの介助を行い清潔を保っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を用い、日中・夜間の排泄パターンを把握している。なるべくトイレでの排泄が行えるように必ず東し誘導を行い、排泄状況に応じ誘導時間を変えたりしている。	記録の必要な利用者はサービス提供チェック表に排尿と排便を記録し、時間の間隔を確認し失敗のないようトイレに誘導している。声かけも「歯磨きしましょう」など周りにも配慮した対応をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の摂取などで便秘予防に取り組んでいると同時に、廊下歩行やストレッチ体操を行っている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員配置の都合から平日午後に入浴を行っている。曜日を定める事でご自身のペースを作っている方もいるので全員の入浴日は決めているが、入りたくない日は無理強いせず、翌日にするなど臨機応変に対応している。	日曜以外の午後に3名程、一人あたり週2回の入浴をしている。好みの湯加減で入浴剤を利用し職員との会話でくつろいで入浴できる時間となっている。拒否のある利用者は家族と自宅の風呂や銭湯を利用する場合もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後のうとうとする時間帯にはお昼寝を勧めたり、室温や掛物なども快適が得られるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤の情報書は個々のファイルに入れてあり、いつでも見られるようにしてある。薬の変更があったときは申し送りやノートにて全員が把握している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや花の水やりなど日常的に行ったり、オセロで楽しんだりしている。			

グループホーム 第2からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さくら草)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は近所輪散歩したり、庭の草刈や果物の収穫を楽しんでいる。お盆には家族とお墓参りに出かけたりするが、出先で困らないよう排泄のことなど家族へ伝え、快適な外出が出来るよう支援している。	5月に百合が原公園で植物鑑賞をしており、暖かな季節は車いす利用者でも散歩で拓北公園や近隣を散歩している。外食に出かけたり個別の買い物にも行く機会があるが職員不足のため出かける回数が限られている。庭にガーデンチェアを置き外気に触れる機会もある。	職員不足が続き、思いうような外出ができないため、職員の充実に伴い多種の外出計画を検討し、外での利用者の楽しみを増やすことを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	会社の方針で金銭の預かりはないが、いくらかの金銭を持っている方もいる。希望があれば買い物に出かけたり、立替として買い物支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの希望があれば、はがきを買ってくる、手紙を出すなどの支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング・廊下には季節の飾りつけがしてある。テレビは人の頭が邪魔にならない高さで置いてあり、好きな番組を楽しんで頂いている。	窓からの景色もよく明るい居間には季節の雛人形が飾られている。廊下も脱衣室も、リビングも暖かく、どの部屋に行っても気温差の感じられないようにしている。廊下には利用者の大きな顔写真が飾られている。日中はリビングで職員と談笑したり、テレビ前のソファでくつろいで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは気の合った者同士、話をしたり、歌を歌ったりと、自由に過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には大切な方の遺影を置いてあったり、テレビを置き、一人で気兼ねなくテレビを楽しむなど思いの生活が送れるよう工夫されている。	好みの物品を持ち込み安心して暮らせる部屋になっている。テレビ、家族の写真、ポスター、ペットのカレンダー、掛け時計が飾られている。どの部屋も温湿度計があり、暖かく、過ごしやすい部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内はバリアフリーになっており、手摺を設置し安全に移動できる。居室には表札をつけ、トイレなどの表示もわかりやすく表示している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201107		
法人名	有限会社 篠路愛護苑		
事業所名	グループホーム 第2 からまつ 月見草		
所在地	札幌市北区拓北4条3丁目 10番17号		
自己評価作成日	平成28年12月31日	評価結果市町村受理日	平成29年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

JR拓北駅より3分ほどの静かな住宅街にある為、交通の便がよく、また、駐車場も完備しているの
で、ご家族様の来訪には気兼ねなく来て頂ける環境にある。庭には芝生が貼ってあるので、夏場には
焼肉ができたり、日差しを浴びながら昼食会も行える。畑を作り、トマトやお芋などをうえ、利用者
と一緒に手入れをしたり収穫を楽しんだりしている。また、実のなる樹木もあり、さくらんぼ・栗・ぶどう
と季節の果物を採る、味わうなどの楽しみも持っている。大きな行事は両ユニット合同で外食や出張
握り寿司など楽しみ、フロアの交流を行っており、顔を見ると元気かい。と、気兼ねなく声をかけれる
環境を作っている。毎日の体操やレクリエーションも楽しく行えるよう工夫をしたり、何気ない時間にも
歌を歌うなどし、常に楽しい場所づくりを心掛けている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&JigrosyoCd=0170201107-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年2月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(月見草)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を念頭に作成した基本理念があり、常に確認・意識できるよう廊下とリビングに掲示し毎朝の申し送り前に唱和し、理念を再認識し、実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の総会には参加しているが、今年度は地域のお祭りやホームの夏祭りが同じ日で参加できなかった。庭の栗ひろいやサクランボ狩りの日には近所の子供が参加し、一緒に楽しんでいた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議のばを利用し、出来事としてあった事の報告や対応策など聞いていただいている。また、入居の問い合わせの電話などでは相談に乗り、支援の方法をお伝えしたり、他の事業所を紹介するなど行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は偶数月に開催しており、活動報告・事故報告などを行い、参加者の意見や課題を検討している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は市・区の会議には参加しているが、今年度は区の担当者を訪問できていない。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な禁止行為がわかる小冊子を配布し、年2回の内部研修を行い、何が禁止行為になるのか知る機会を設けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の内部研修で虐待について学ぶ機会を設けている。入浴や更衣時に青あざなど発見した時にはどのようにしてできたものなのか、話し合い、原因をつかむ努力をしている。		

グループホーム 第2からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(月見草)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度から後見人制度を利用した利用者があり、それを機に後見人制度について勉強する機会が持てた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時には契約書に添った説明を行っており、理解・納得をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来苑された時は日常の報告を行い、ご本人やご家族の思いを聞き、日々のケアに反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃から職員の意見や要望に耳を傾け、他の職員とも、その意見や要望に対し、話し合っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社は正社員制度を確立させ、個々の能力に応じ評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数や個々の能力に応じ研修を受ける機会を設けている。また、資格取得に向け、費用を負担し、働きながらスキルアップできる環境を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は札幌市や北区の管理者連絡会に参加し、情報の交換を行っている。また、ふれあいネットワークに参加し、他のGHとの情報交換に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(月見草)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の見学時にご本人が不安に思っていることや困っていることを聞き、どのような対応が出来るかを話し合い、少しでも安心して頂ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学時にご家族が不安に思っていることや困っていること、ご家族にしかわからない利用者の性格や生活歴をうかがい、ホームではどのような対応ができるのかなどを話し合い、信頼関係を構築する努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様からの情報をもとに、まず何が必要かを見極め、他のサービスの情報提供も含め、説明している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の負担にならない範囲で食器拭き、洗濯たたみなど手伝って頂く。また、ご本人の居室の掃除も一緒に行うなどし、生活に役割を持っていただいている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事のご案内をし、一緒に楽しんでいただける場面を提供したり、面会時には、他の方を気にしないよう居室でゆっくりと過ごして頂いている。また、体調の変化などはこまめに電話で報告し、情報の共有をし、暮らしをともに支えあっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族などの面会がある時は、居室でゆっくりと話して頂いている。お正月には外泊をしたり、お墓参りに出かける方もいる。また、昔から行きつけの美容院へご家族と行かれる方もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自分から話しかけることが苦手な方などは職員が間に入り、話を伝えたり、楽しく会話できるよう介入している。		

グループホーム 第2からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(月見草)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退去された方なども、お見舞いに行き、様子をうかがい、今の状況をご家族に連絡したり、今の状況をご家族から聞き、心配なことはないか、お声掛けをさせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活を職員が把握、表情や言葉で思いや意向を理解するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を家族より聞き、新しい環境に不安のない様職員全員で見守っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	表情や言葉で精神状態、身体状態を把握、職員同士で情報交換を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の要望を聞き、また、家族からの要望も尋ね、介護計画輪作成、モニタリングでは職員で評価を行い新しい課題を見つけている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の記入、連絡ノートで日々、気づいたことを記入して、今の状態をか悪、また、計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	働いているご家族も多いので、受診などは極力ホームで対応し、ご家族に負担にならないようお手伝いしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の施設とも協力して一緒に行事の参加等を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療・訪問看護の医療連携の協力を得、指示を受けて対応、また、家族の協力のもと、かかりつけ医の受診も行っている。		

グループホーム 第2からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(月見草)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護時、1週間の状態を報告、状態により指示を受け、相談をおこなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供により、速やかに受診できるよう支援を行い、家族へも経過報告をおこなっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は早い段階より病院関係者・家族・それぞれと話し合いを行い、安心できる方向で支援をおこなっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を受け、緊急時の為の連絡事項等、対策を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間・夜間とそれぞれ避難訓練を行い、股、町内会とも協力体制を整えるよう働きかけている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬意を持ち、あいさつ・声掛けを行っている。個人ファイルなどは事務所に保管し、記録を書くときには、内容が見えないよう工夫をし、申し送りは利用者から離れた場所で、小声で行うなど気を付けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴など声掛けを行い、ご本人の気持ちを確認したり、表現が難しい方には具体的な表現で理解をして頂ける様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	フロアで過ごししたり、居室で小物を作ったり、その日の状態により過ごし方を選べるように声掛けを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服等自分で選べるよう声掛けし、また、利用の際は自分で髪型を決められるよう支援を行っている。		

グループホーム 第2からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(月見草)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルセット・テーブル拭き・食器拭き等、それぞれ出来ることを一緒にやっている、また、出前や外食も行い、気分を変えて楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立についてはカロリー計算されており、栄養バランスを考えている。水分についても、お茶やジュース等水分量・食事を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛け、できない方については介助行い、状態によっては訪問歯科の受診を受け、口腔内のいい環境を意識している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により排泄状況や時間間隔など把握し、日中は特にトイレでの排泄が出来るよう声掛けし誘導を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量、ヨーグルトやゼリー等の提供、適度な運動の声掛けも行っている。状態により、坐薬または浣腸の受診を受けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を行っているが、状態により、シャワー浴、足浴、清拭と個々の支援を行っている。タイミングが合わず、入浴できなかった時は翌日に再度声掛けを行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適度な運動、気持ちの良い入浴により、睡眠できるよう過ごし方を見守り、また、昼寝等様子に応じて進めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問診療時、変更のある薬の記録を行い、説明書により確認行い、服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事の飾りの準備、お手伝い、レクリエーションではゲーム、トランプ歌等で時間を過ごしている。他のユニットへも職員と一緒にいる。		

グループホーム 第2からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(月見草)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・買い物・外食等、行事を行っている。また、家族の方とお墓参りやお正月の外泊なども行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	会社の方針で金銭の預かりはないが、いくらかの金銭を持っている方もいる。希望があれば買い物に出かけたり、立替として買い物支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話をかけられる様支援おこなっている。また、かかってきた電話についても話が出来るよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節・行事により環境を整え、楽しんで頂いている。場所については分かりやすい様に掲示や一で示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お互いの部屋へ遊びに行き、談話されたり、一人で過ごしたり、またはフロアでテレビ、新聞を見たり、今のソファへ座ったりそれぞれが動き、過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力のもと、居室はそれぞれ家具、写真などの飾り物で整理されている。掃除の際は希望があれば配置を替え、気分を変えて過ごしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれ居室に手すりをつけ、歩行不安定な方は使用し浴室も安全に入浴できるよう、工夫をしている。場所が理解できるよう表示、一で方向を示している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 第2からまつ

作成日：平成 29年 3月 7日

市町村受理日：平成 29年 3月 13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	会議のテーマを年間を通して計画的に設定し、より幅広い観点で意見交換が行われることに期待したい。	年間を通しての計画を立て、家族や近隣の住民の方の予定を立てやすくし、参加をして頂く。また、多くの方に参加して頂き、意見交換が出来る場を作る。	運営推進会議において消防避難訓練や外部評価についての報告や、意見を聞くなど行っていることを年間のテーマに位置付ける。	1年
2	23	全利用者のフェイスシート、暮らしの情報シート、焦点情報シートが同じように、また、定期的に整備されることを期待したい。	シートの統一化を図る。	社内の統一書式を用いてシートの統一化を図る。また、ケアプランの長期目標見直し時期に合せ、シートの見直しを行う。	1年
3	11	定期的な全体会議や個人面談の実施を期待したい。また、全体会議の議事録を作成し、参加できなかった職員に内容を伝えることを期待したい。	年2回の全体会議と個人面談を行い、毎月フロア会議を行う。	年間行事の予定の中に組み込み、時期を決めておき、計画的に行う。	1年
4	49	職員不足が続き、思うような外出が出来ない為、職員の充実に伴い多種の外出計画を検討し、外出の利用者の楽しみを増やす事を期待したい。	年間行事の中に行事でのお出かけを組み込み、外出の機会を多く取り入れる。	全員でのお出かけが厳しいので、少数人数で出かけるよう計画し、職員が少なくても対応できるよう近隣の公園やスーパーなどを利用し、外出の機会を増やす。	1年
5	2	次年度、屯田地区へ事業所移転を計画しており、新たな場所で地域と親密な関係を築くことを期待したい。	移転先の町内会行事に参加し、交流を図る。	移転先は町内会がない地域なので、近隣の町内会の行事に参加させて頂いたり、当ホームの行事のお知らせをし、参加して頂く。	1年
6	35	新たな移転先で地域の方に避難訓練への参加を依頼し、実現することを期待したい。	地域の方に避難訓練への参加をして頂く。	避難訓練の日時が決まった段階で、町内会会長さんのところに案内を届け、また、近隣の住宅にも避難訓練のお知らせと共に、参加のお願いをする。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。